

校訓	真善美	令和7年度 学校だより	発行日	令和8年1月7日
教育目標	自ら考え、協働し、共に未来を創造する生徒の育成 -謙め合う心、確かな学力、健やかな心身を育てる-	「荒中だより」 1月 瞳月 第19号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 二宮 啓二

令和7年度 3学期始業式 式辞

あけましておめでとうございます。新しい年、令和8年を迎えるました。1月は「むつき」といいます。「むつ」とは「仲良くする」という意味で、お正月に親しい人が集まり仲睦まじくするからと言われています。家族や親せき、友達などが集まり仲良く楽しい時間を過ごせましたか？



また、今年は「うま」です。干支は「午」という漢字を使います。いつも使っている動物の「馬」という字とは違っています。なぜでしょうか？

干支は、もともと時間や方角を表していた12の言葉「子丑寅卯辰巳馬未 申酉戌亥」に、誰もがわかりやすいように動物を重ねたものといわれています。その7番目にあたったのが「馬」だったため、「午」が「うま」となりました。実は、この「午」という漢字、みなさんの普段の生活の中でもよく使っているものなのです。

昔は午前0時前後の2時間ねを「子」の刻といい、そこから順に2時間刻みで丑、寅…と当てはめていました。そうして数えていくと「午」の刻はちょうどお昼の12時ごろになります。今じゆうの12時を「正午」というのは、「ちょうど“午の刻”である」ことに由来しています。また、正午を境に、「午前」「午後」というのも「午の刻」よりも前か後ろかということに由来しています。

時刻だけでなく、方角も十二支で表されていました。北極と南極を結んだ線を「しごせん子午線」といいます。本初子午線、標準時子午線など、社会で習いましたよね。これは北を意味する「子」と南を意味する「午」を結んだ線ということからできた言葉です。「午」という普段使わない漢字の学びが生活につながっている一例です。

みなさんが今、学んでいる知識や技能は、このように自分たちの生活の中に根ざして初めて生きて働く力となります。授業では、仲間とともに協働し、対話的に学

ぶことで、身につけた「知識や技能」を活かした「思考力・判断力・表現力」が培われます。また、最初に考えた「なぜ」「どうして」という疑問は、自らを学びに向かわせるエンジンとなり、「学びに向かう力」や「主体的に学習に取り組む態度」を育みます。

今年度、先生方は研修などを通じて、荒牧中学校のみなさんが、これから社会を生き抜いていくためには、どんな力が必要で、どんな授業をすべきかということについて、学び合ってきました。そして、授業の中で「基礎学力の定着」「興味や関心を高める工夫」「ICTの活用」を土台とし、「学習の見通しを持たせること」「自分の考えを持つ場面を創ること」「意見交流や学び合いを通して、生徒の思考を広げたり深めたりする場面を創ること」「振り返りを取り入れること」を柱に授業を行うこととしました。

このことを踏まえ、2学期の終わりに、学習委員会で荒中生授業づくり5ポイントが作成されました。みなさんも学びを深めるため、授業にしっかりと取り組んでほしいと思います。



“志定まれば、気盛んなり”

さて、1月は「いく」、2月は「にげる」、3月は「さる」と言い、時の流れの早さを表します。時間を大切に、年の初めに目標をしっかりと定め、努力を重ねましょう。

3年生は中学校生活最後の46日間になります。多くの人はもうすぐ受験です。江戸時代に活躍した吉田松陰の言葉に『志定まれば 気盛んなり』という言葉があります。『いったん決心がつけば、意氣(やる気)が高まりどのようなことにも立ち向かい実現できる』という意味です。受験校が決まった今、迷いなく、そして自分を信じて頑張ってください。1、2年生の皆さんも、あと3ヶ月で進級です。今、自分を伸ばすためにできることにしっかりと取り組んでください。4月に入学てくる後輩が、その背中を追いたくなるような先輩に成長する3学期にしてほしいということをお願いして、3学期始業式に当たってのあいさつといたします。